



User Guide



LAUNCHPAD X



警告:

本製品を通常に動作させている場合にも、強力な静電放電 (ESD) の影響を受ける可能性があります。このような場合には、USB の接続を一度解除し、再度接続することで再起動をお試しください。通常の動作が回復します。

商標

Novationの商標は Focusrite Audio Engineering Ltd.が所有しています。このマニュアルに記載されているその他すべてのブランド名、製品名、会社名、およびその他の商標登録または商標は、それぞれの所有者に帰属します。

免責事項

Novationは、ここに記載されている情報が正確で完全であることを保証するために可能なすべての措置を講じています。いかなる場合でも、Novationは、本マニュアルまたはそこに記載されている装置の使用に起因する装置、第三者または装置の所有者に対する損失または損害についていかなる責任も負いません。本書に記載されている情報は、事前の警告なしに変更することがあります。仕様および外観は、リストおよび例示されているものとは異なる場合があります。

著作権表示と法定通知

Novationは、Focusrite Audio Engineering Limitedの登録商標です。Launchpad X™は、Focusrite Audio Engineering Plcの商標です。

2019 © Focusrite Audio Engineering Limited. 無断転用禁止。

目次

はじめに	4
Launchpad Xの主な機能.....	4
同梱物.....	4
事前準備.....	5
Launchpad Intro.....	7
Ableton Live.....	8
他のソフトウェアと使用する.....	8
各部の名称と特徴	9
Launchpad Xのインターフェース	10
セッションモード	10
Ableton Liveのセッションビュー.....	10
ミキサーモード.....	13
ノートモード	17
クロマチックモード.....	18
スケールモード.....	18
ノートモード設定.....	19
オーバーラップ.....	20
ドラムモード.....	21
カスタムモード	22
デフォルトカスタムモード.....	23
Novation Componentsでカスタムモードをセットアップする.....	24
パッドでライトショーを作る(上級者向け).....	25
設定	26
LED設定.....	26
ベロシティ設定.....	27
アフタータッチ設定.....	28
フェーダー設定.....	29
Liveおよびプログラマーモード.....	30
ブートルoaderメニュー.....	30
デフォルトMIDIマッピング	32

はじめに

Launchpad XはAbleton Liveに最適なグリッドコントローラであり、音楽制作のスピードを上げ、高速かつ直感的なライブパフォーマンスを可能にします。

Launchpad Xを使えば、フルカラーのRGBを備えたパッドでAbleton Live内のセッションビューを指先で操作することができるため、クリップを簡単にローンチ(再生)することができます。また、パワフルなノートモードではベロシティ/プレッシャーセンシティブ対応のパッドで表現力豊かなビートやメロディーを配置することができ、本体上でさらに高度なトラックの構築を行えます。

本マニュアルではLaunchpad Xの各機能について紹介し、作曲やパフォーマンスをさらに向上させる方法について解説していきます。

Launchpad Xの主な機能

- 64のRGB LEDバックライト搭載パッドで構成される8x8グリッド
- ベロシティ/プレッシャーセンシティブ対応パッドにより、インストゥルメントを表現力豊かに演奏可能
- Ableton Live上のクリップとシーンをローンチしてパフォーマンスを構築
- MIDIキャプチャおよびAbleton Live内での演奏を録音
- USBバスパワーに対応しコンピュータに接続するだけで使用可能
- パワフルかつ多目的なモード: **セッション**、**ノート**、**4つのカスタムモード**
- Ableton Liveミキサー – トラックごとに**音量**、**パン**、**センド**をコントロール
- **Stop**、**Solo**、**Mute**、**Record Arm**ボタンで、パフォーマンスコントロール部に直接アクセス
- パワフルな音楽制作ソフトウェアAbleton Live 10 Lite、多岐にわたる高品質なインストゥルメントやエフェクトを付属
- **カスタムモード**を使ってソフトウェア制御の可能性を無限に

同梱物

- Launchpad X
- USB-C to USB-Aケーブル

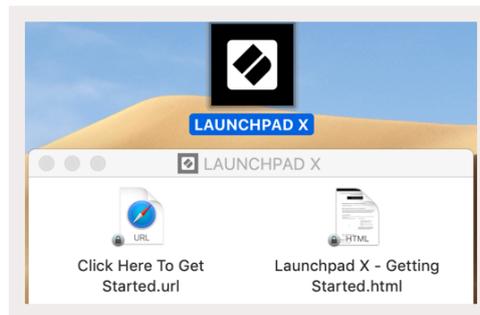
事前準備

ビートメイク初心者の方にも、経験豊富な方にとっても、Launchpad Xの使用準備は非常に簡単に行えます。NovationのEasy Start Toolでは、セットアップ方法に関するステップごとのガイドを提供するため、音楽制作を行なったことがない方も、付属ソフトウェアのみをとにかくすぐダウンロードしたい方も、必要な部分だけを参照することができます。

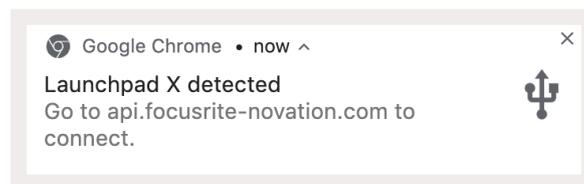
Easy Start Toolにアクセスするには、まずLaunchpad Xをコンピュータに接続する必要があります。

Macを使用する場合

1. デスクトップ上の「LAUNCHPAD X」フォルダを開きます。
2. フォルダ内のリンク「Click Here to Get Started.html」をクリックします。
3. Easy Start Toolが開かれ、セットアップを行えます。

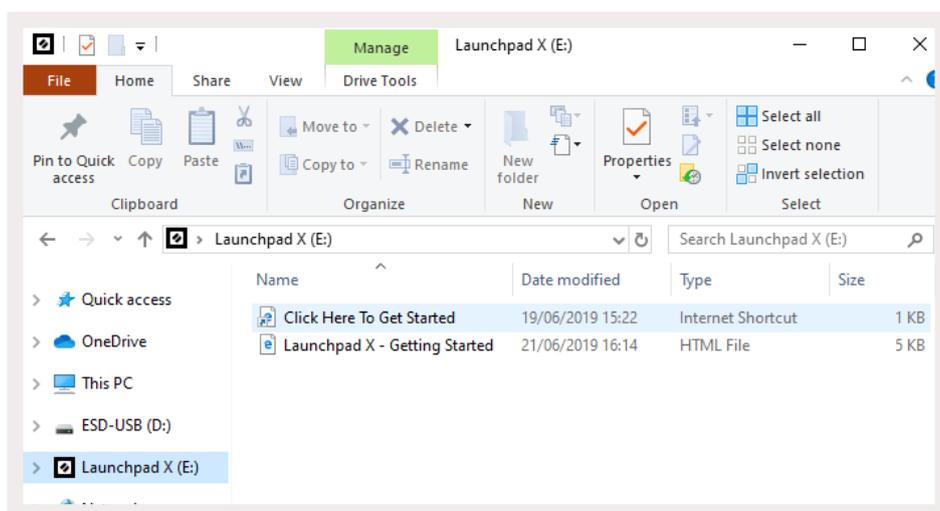
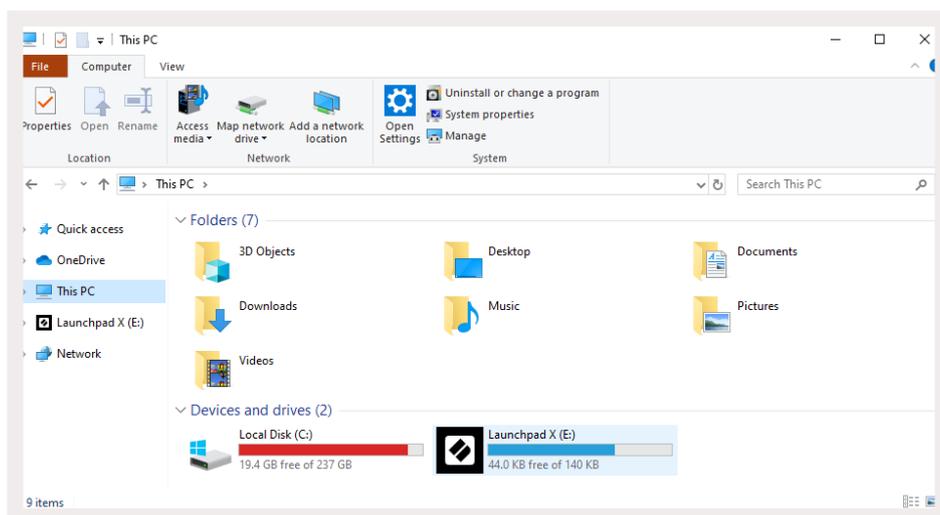


コンピュータ上でGoogle Chromeを開いている場合、Launchpad Xを接続するとポップアップが表示され、Easy Start Toolに直接移動します。



Windowsを使用する場合

1. Startボタンを押し、「This PC」と入力したら、Enterキーを押します。
2. This PC内で、「Launchpad X」ドライブをダブルクリックします。
3. ドライブ内のリンク「Click Here to Get Started.html」をクリックします。
4. Easy Start Toolが開かれ、セットアップを行えます。

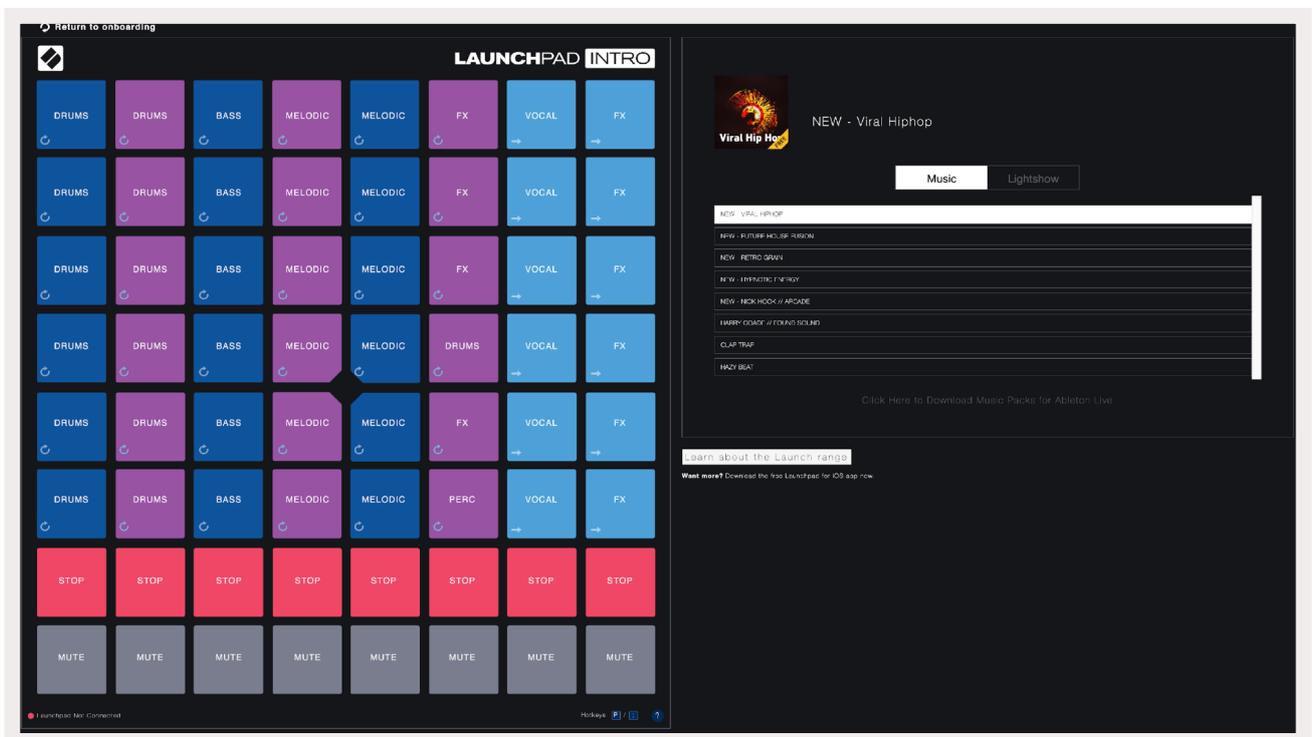


Launchpad Intro

Launchpadを触ったことがない方は、**このLaunchpad Intro**をはじめに確認すると良いでしょう。Ampify Musicの厳選された様々なパックの中から好きなものを選択すれば、すぐに演奏を行えます。お使いのLaunchpad Xが画面上のグリッドと対応し、パッドを押すことでループやワンショットを再生してトラックを構築できます。

Launchpad Introに移動するには、Launchpad Xをコンピュータに接続し、intro.novationmusic.com/にアクセスします。すると、接続されているLaunchpad Xが自動的に検出され、パックを使ってすぐに演奏を行えます。

注意: Launchpad Introにアクセスするには、WebMIDI対応のブラウザを使用する必要があります。Google ChromeまたはOperaの使用を推奨します。



Ableton Live

Ableton Live (単にLiveとも呼ばれます) は、音楽制作のためのユニークかつパワフルなソフトウェアです。Launchpad XにはAbleton Live 10 Liteが付属し、自分の音楽を作り始めるのに必要な全てのツールが含まれています。

Ableton Liveを使用したことが無い方は、Easy Start Too (使用準備参照) にアクセスすることを推奨します。Easy Start Toolでは、付属のAbleton Live 10 Liteのダウンロードやインストール方法を確認できるほか、Ableton Liveの主な機能やLiveとLaunchpad Xを使って音楽制作を始める方法に関する解説ビデオを視聴できます。

Ableton Liveをインストールしたら、Launchpad XをMacまたはWindowsのUSBポートに接続します。Liveを開くと、Launchpad Xが自動的に検出され、セッションモードに切り替わります。

Ableton Liveの詳細な機能に関しては、Abletonウェブサイトをご確認ください：www.ableton.com/ja/live/learn-live/.

Launchpad Xを製品登録することで、こちらからAbleton Live 10 Liteのライセンスを入手できます：customer.novationmusic.com/register.

他のソフトウェアと使用する

Launchpad XはAbleton Live用に設計されていますが、他のソフトウェアのコントローラーとしても使用が可能です。他の音楽制作ソフトウェアを使用している場合は、support.novationmusic.comにて、Launchpad Xのセットアップ方法をご確認ください。

お困りの場合

セットアップでお困りの場合、Novationサポートチームまでお問い合わせください。Novationヘルプセンター support.novationmusic.com では、よくある質問に対する回答など多くの情報を確認できます。

各部の名称と特徴

- 1 ナビゲーションボタン
- 2 セッションモード(+ ミキサー切り替え)
- 3 ノートモード
- 4 カスタムモード
- 5 録音 & キャプチャMIDI
- 6 8x8 パッドグリッド
- 7 シーンローンチ & ミキサーボタン



- 8 USB-Cソケット
- 9 Kensington MiniSaver™ソケット



Launchpad Xのインターフェース

各モードはLaunchpad Xのインターフェースの中核を担います。モードによって各ビュー間の切り替えや、それぞれ異なる機能を利用できます。

次の3種類のモードが備わっています：**セッション／ノート／カスタム**



モードボタン(上図)を押して各モードに切り替えます。現在選択されているモードが緑色に点灯し、使用できるモードが暗い白に点灯します。

セッションモードで再度Sessionを押すと、ミキサーモードに切り替わります。ミキサーモードでは、シーンローンチボタンがそれぞれ小さく表記されているメニュー名に応じたAbleton Liveのミキサー機能に切り替わります。

また、4つの**カスタム**モードが備わっており、Customボタンを押すと、デフォルトではカスタムモード1に切り替わります。Customボタンを押した後、上から4つのシーンローンチボタンを押すことで各モードにアクセスします。選択中のカスタムモードは薄緑に点灯し、選択可能なモードは暗い白に点灯します。Novation Componentsを使用すると、これらの4つのモードを編集し、用途に合わせて独自のカスタマイズを行えます(カスタムモード参照)。

セッションモード

Ableton Liveのセッションビュー

セッションモードは、**Ableton Liveのセッションビュー(下図)をコントロールするために設計されています。**

Ableton Liveを使用したことが無い方は、Easy Start Too(使用準備参照)にアクセスすることを推奨します。ここでは、付属のAbleton Live 10 Liteのダウンロードコードの入手(Launchpad Xを登録する場合)や、またインストール方法とAbleton Liveの基本機能、Ableton LiveとLaunchpad Xを使用した音楽制作の始め方などを説明したビデオをご覧ください。

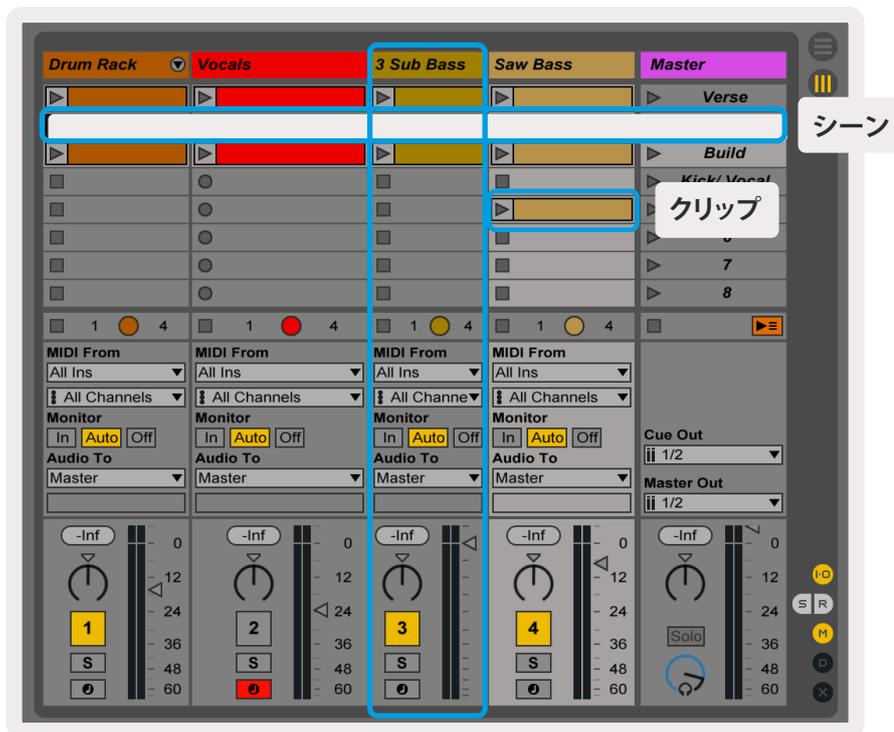
セッションビューは、**クリップ、トラック(縦の列)、シーン(横の列)**によって構成されるグリッドです。セッションモードでは、このセッションビュー上の8x8のクリップがLaunchpad Xに示されます。

クリップとは、基本的にMIDIノートやオーディオ音源を含むループを示します。

トラックはバーチャルインストゥルメントやオーディオトラックを示し、インストゥルメント・トラックに配置された MIDIクリップはそのトラックにアサインされているインストゥルメントを演奏します。

シーンはクリップの横一列を示します。シーンをローンチ(再生)すると、その列に含まれている全てのクリップが再生されます。つまり、横一列(各トラックをまたいで)にクリップを配置することでグループを形成し、シーンを上から順に再生していくことで一つの曲を構成していきます。

トラック



▲▼◀▶ ボタンでは、セッションビュー内を移動できます。Ableton Liveのセッションビュー上に表示される枠線は、現在Launchpad X上で示されている範囲を表します。

注意:この枠は任意の色で表示されますが、機能には影響しません。



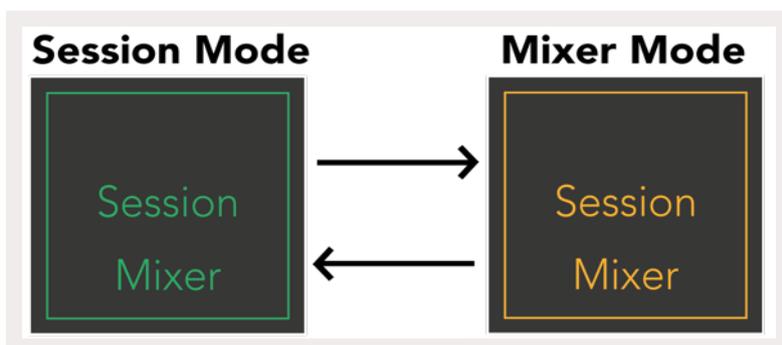
- パッドを押すことで、Ableton内の対応するクリップが再生されます。パッドの色とAbleton画面上のクリップの色は一致します。
- パッドを押すと緑色に点滅し、クリップの再生準備が行われたことを示します。再生中のクリップに対応するパッドは緑色に点滅します。
- 1つのトラック上で同時に再生できるのは1つのクリップのみになります。空のクリップを押すとそのトラック上で現在再生されているクリップが停止します。
- クリップの横一列のことを**シーンと呼びます**。Launchpad X右側にある > (シーンローンチ) ボタンを押すことでシーンを一度に再生できます。

トラックが録音アームされている場合(ミキサーモード参照)、[O]ボタン(セッション録音)で、現在再生されているクリップのオーバーダブが可能になります。

Capture MIDIを長押しすると、直前の演奏を復元し、MIDIトラックに配置できます。録音アームされているトラック上でいかなるクリップも再生されていない場合、Ableton LiveがそのMIDIノートを新しいクリップに配置します。クリップが再生されている場合、MIDIノートがそのクリップ上にオーバーダブされます。

ミキサーモード

ミキサーモードはセッションモードのサブモードとして機能し、**Ableton Live 10**内の様々なトラックのパラメータをコントロールします。ミキサーモードは、セッションモード上でSessionボタンを押すことでオンオフを切り替えられます。ミキサーモードの場合にはSessionボタンがオレンジ色に点灯し、セッションモードの場合には薄緑に点灯します。



ミキサーモードでは、シーンローンチボタンがそれぞれ小さく表記されているメニュー名に応じたミキサー機能に切り替わります。

ミキサー機能のボタンを押すと明るく点灯し、選択されていることを示します。再度同じミキサー機能のボタンを押すと、選択が解除されます。選択されていないミキサー機能は薄暗い白に点灯します。



Volume: セッションビュー内で現在選択されている8x8のエリア内のトラックの音量レベルを制御します。ボリュームフェーダーは縦の列で示されます。

Pan: セッションビュー内で現在選択されている8x8のエリア内のトラックのステレオパンニングを制御します。**パンは横の列で示され**、一番上のパンが一番左のトラックを示し、一番下のパンが一番右のトラックを示します。

Send A: セッションビュー内で現在選択されている8x8のエリア内のトラックからSend Aに送られるセンドレベルを制御します。センドフェーダーは縦の列で示されます。

Send B: セッションビュー内で現在選択されている8x8のエリア内のトラックからSend Bに送られるセンドレベルを制御します。センドフェーダーは縦の列で示されます。

Stop Clip: 一番下の列のパッドと一緒に使用してクリップの再生を停止します。ボタンを押すとそのトラック内のクリップの再生がフレーズの終点で停止されます。

Mute: 一番下の列のパッドと一緒に使用してトラックをミュートします。ボタンを押すと該当のトラックの再生がミュートされ、再び押すとミュートが解除されます。

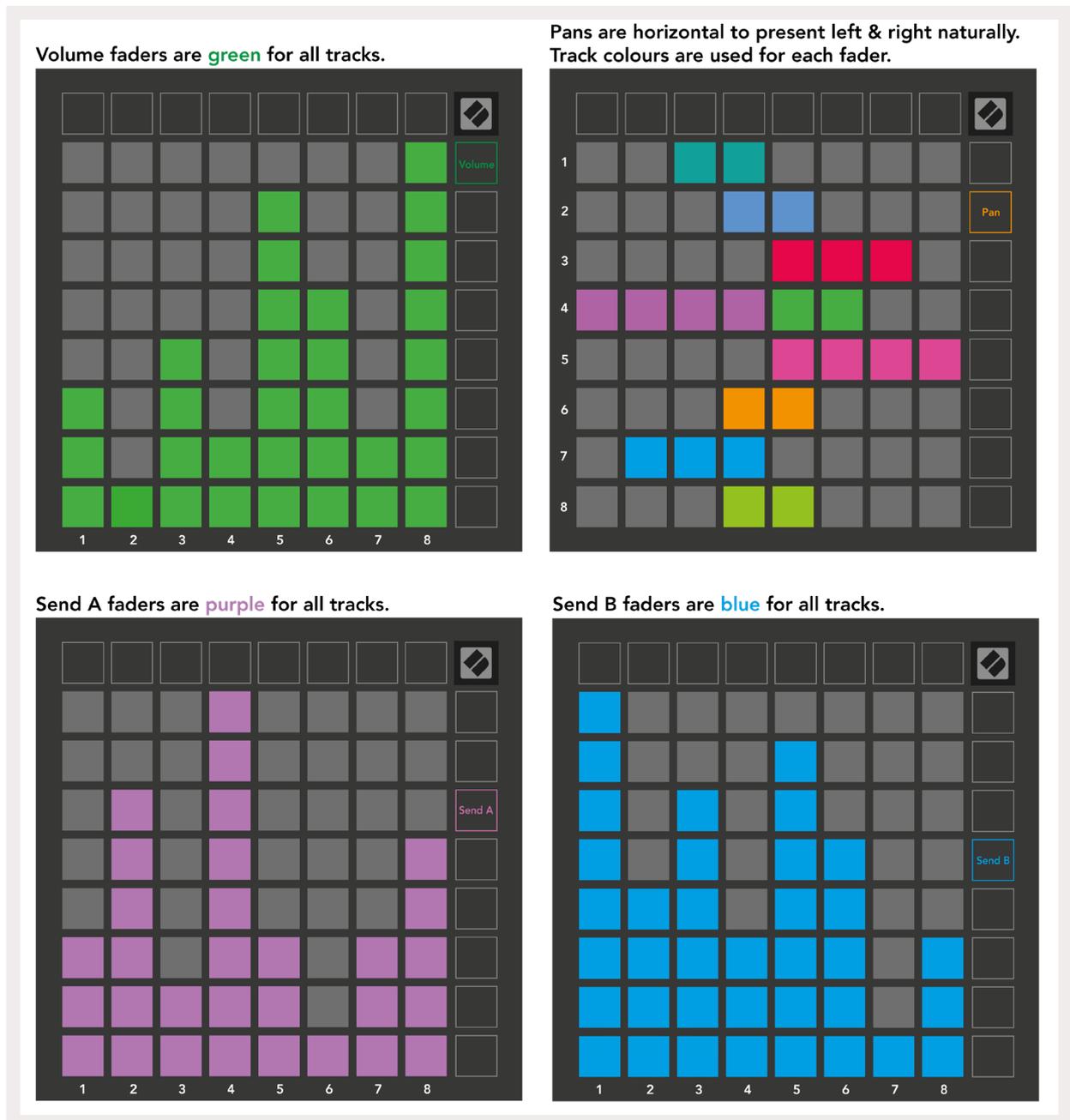
Solo: 一番下の列のパッドと一緒に使用してトラックをソロにします。ボタンを押すと該当のトラックの再生がソロになり、他のすべてのトラックはミュートになります。再度ボタンを押すとソロが解除されます。

Record Arm: 一番下の列のパッドと一緒に使用してトラックを録音アームします。ボタンを押すと、該当のトラックが録音のためアームされ、トラックにクリップを録音できます。再度ボタンを押すと、トラックのアームが解除されます。

Volume、Pan、Send A、Send Bは、それぞれ8本のフェーダーで構成されます。Volume、Send A、Send Bのフェーダーは縦方向に並び、Panでは横方向に並びます(以下参照)。パッドを押すことでフェーダー位置を上下(または左右)に動かすことができます。

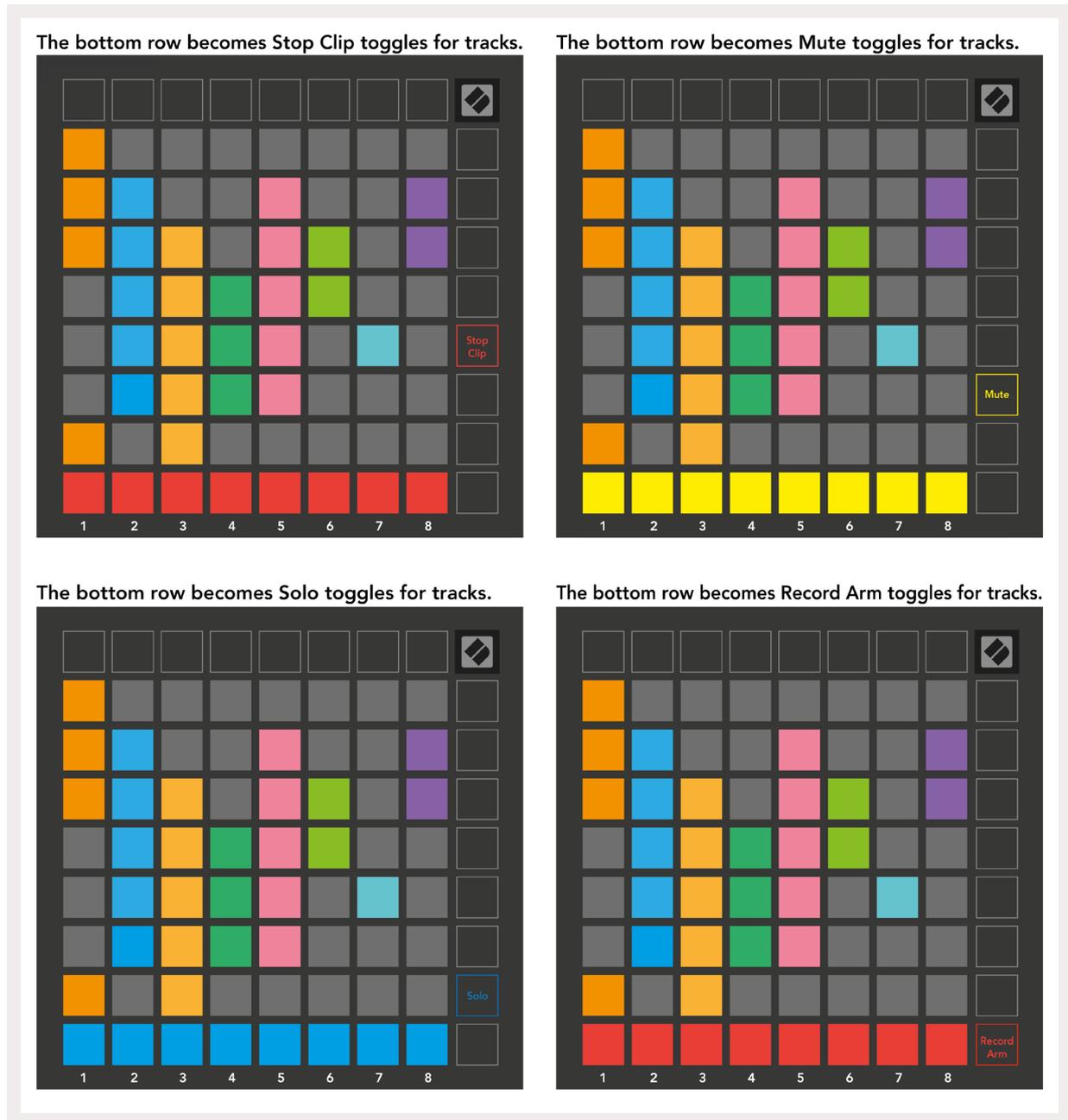
フェーダー はベロシティセンシティブに対応しており、フェーダーパッドを強く押すと値が素早く変化し、軽く押すと値がより緩やかに変化します。

フェーダーは、同じパッドを複数回タップしてアクセスできる**マイクロ値**も備えています。パッドを押すごとにわずかに高い値が出力され、フェーダーでより細かなコントロールができるようになります。パッドごとに4つのマイクロ値が設定でき、パッドのマイクロ値が最も高くなった際に同じパッドをさらに押しと、パッドの最も低い値に戻ります。フェーダーのマイクロ値は、最も高い値のフェーダーのパッドの明るさで表示され、最も低い値のときは薄暗く、最も高い値のときは最大に明るく点灯します。



上図の各フェーダーに示されている数字は、セッションビュー上の赤い枠内エリアでフェーダーがどのトラックに紐づいているかを表しています。パンの場合には、一番左のトラックが一番上のトラックとして示されます。

ミキサーモードでは、一番下の列のパッドを使って4種類のパフォーマンストラックコントロールを瞬時に行えます：**Stop** (特定のトラック内のクリップの再生を停止します)、**Solo** (特定のトラックをソロにします)、**Mute** (特定のトラックをミュートします)、**Record Arm** (録音の際に特定のトラックを録音アーム状態にします)。ミキサー機能ボタンを押すと、これらの機能が一番下の列のパッドに配置されます。



録音アーム、ミュート、ソロが適用されている各トラックのパッドは明るく点灯し、その他のパッドは薄暗く点灯します。

トラックが録音アームされると、その縦一列内の全ての空のクリップが暗い赤に点灯します。クリップを押すと赤く点滅し、録音が始まることを示します (録音ボタンも一緒に点滅します)。録音が始まるとパッドが赤く点滅し、録音ボタンが明るい赤色に点灯します。さらに録音ボタンを押すと、クリップが再度赤に点滅し、録音が停止されることを示します。録音中にトラックの録音アームが解除されると、そのクリップの録音がただちに停止されます。

セッションモードとミキサーモードは、モーメンタリ(一時的な)切り替えが可能です。

例えば、トラックのミュートを制御しながら一時的にボリュームフェーダーにアクセスしてトラックの音量をあげたい場合、[Volume]を押さえながらボリュームフェーダーを操作し、[Volume]から指を離すとそのままミュートビューに戻ります。

フェーダーは、表示されていない場合には反応しないためご注意ください。

ノートモード

Launchpad Xのノートモードでは、ベロシティ／プレッシャーセンシティブの8x8グリッドを使ってドラムやメロディーを表現力豊かに演奏できます。

ノートモードのレイアウトは、クロマチック、スケール、ドラムレイアウトから選択でき、Launchpad Xの演奏画面をカスタマイズできます。

どのレイアウト内でも▲▼ボタンを使ってオクターブを上下できるほか、◀ ▶を使って半音ごとにグリッドをトランスポーズできます。

ノートモードのレイアウトは、Ableton Live内で録音アームされているインストゥルメントによって自動的に切り替わります。ドラムトラックを含むトラックがLive内で録音アームされている場合、ノートモードがドラムレイアウトに切り替わり、その他のインストゥルメントの場合には切り替わりません。

Ableton Live内でブラウザーからインストゥルメント選んでダブルクリック(またはトラックにドラッグアンドドロップ)し、MIDIトラックに読み込みます。パッドを演奏しても音が聞こえない場合には、トラックの録音アームが有効になっていることと、[Monitor]が[Auto]になっていることを確認します。



クロマチックモード

クロマチックモードはノートモードのデフォルトとなっており、8x8グリッド上のパッドを押して、ノートをトリガーします。クロマチックモードでは全てのノートを演奏できますが、スケール内のノートが視認できるようになっています。

青いパッドは現在選択されているスケール内のノートを（デフォルトではCマイナー）、ピンクのパッドはそのスケールのルート音を、点灯していないパッドはスケール外のノートを表します。

ここで示されているデフォルトのクロマチックレイアウトはギターの運指と似ており、2パッド上かつ2パッド分右のパッドが1オクターブ上のパッドとなります。そのため、ギターのコード演奏の指の形を利用することができます。さらに6つ目のパッドは、上の列の1つ目のパッドと同じノートを弾くことになり、ギターのレイアウトをさらにのっっています。

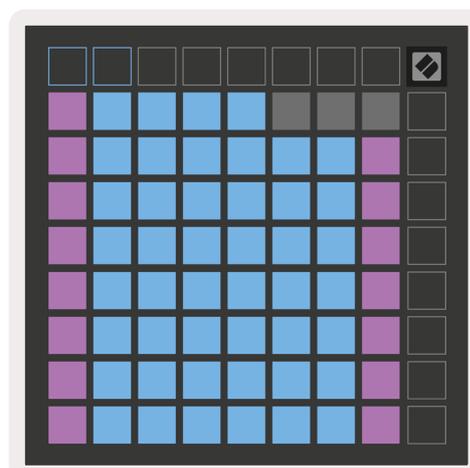
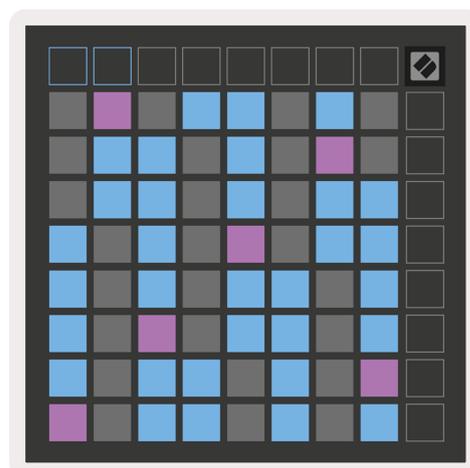
クロマチックモードのレイアウトは、**ノートモード設定**で行います。Noteを長押ししてアクセスします（ノートモード設定を参照）。

スケールモード

スケールモードでは現在指定されているスケール内のノートのみが表示されます。これにより、キーから外れる心配をせずに自由な演奏を行います。

クロマチックモードでは青いパッドが現在指定されているスケール内のノートを示す一方、ピンクのパッドがそのスケールのルート音を示していましたが、スケールモードでは、その位置で演奏できるスケール内のノートが存在しない場合、空のパッドで示されます。これはクロマチックモードでも同じことが言えます。

スケールモードのレイアウトは、**ノートモード設定**で行います。Noteを長押ししてアクセスします（ノートモード設定を参照）。



ノートモード設定

ノートモード設定では、クロマチックモード／スケールモード間の切り替えや、現在選択されているスケールやルート音の変更、ノートモードのレイアウト(オーバーラップコントロールを含む)変更、ノートモードのMIDIチャンネル変更を行えます。

Noteを長押ししてノートモード設定に移動します。ノートモード設定中は、Noteが緑色に点滅します。

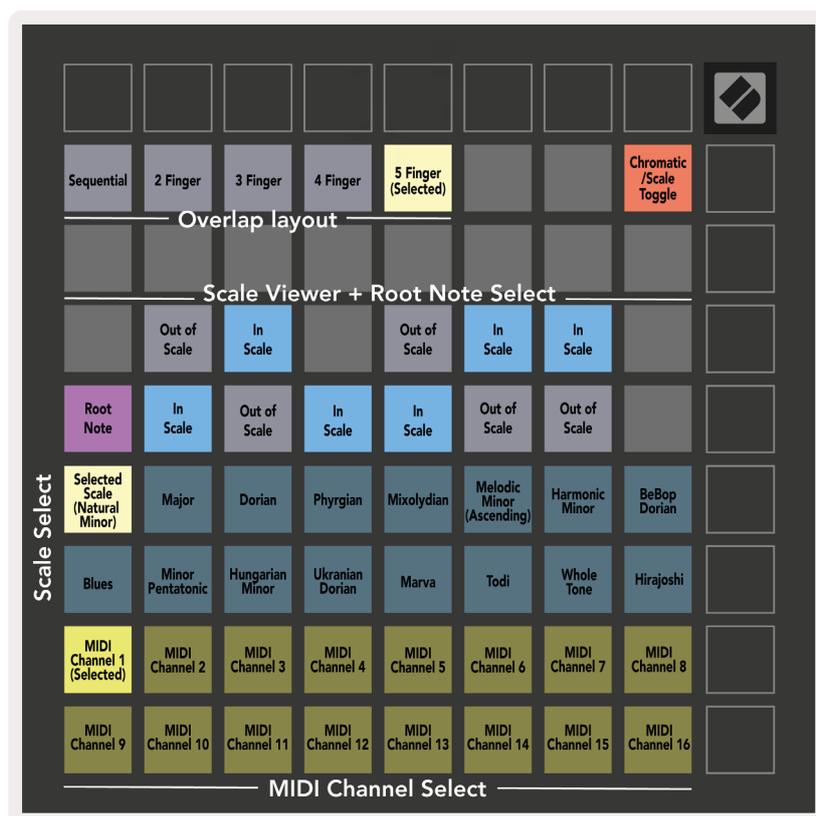
Chromatic/Scale Toggleでは、クロマチックモード(淡い赤に点灯)およびスケールモード(エメラルドグリーンに点灯)間の切り替えを行います。

Overlapでは、クロマチックモードとスケールモード両方のレイアウトが変更できます。(オーバーラップ参照)。

Scale Viewerではどのノートが現在選択されているスケール内に含まれているか、ピアノ鍵盤のレイアウトで示されます。青いパッドはスケール内のノートを、ピンクのパッドはそのルート音を、暗く白に点灯しているパッドはスケール外のノートを示します。スケールビューワー内のパッドを押すとそのスケールのルート音を変更できます。

Scale Selectでは、パッドを押して16種類のスケールから選択できます。選択されたスケールは明るい白に点灯し、選択されていないスケールは淡い青に点灯します。

MIDI Channel Selectでは、ノートモードがMIDIを送信するMIDIチャンネルを1-16から設定します。複数のトラックが録音アームされている状態で、特定のトラックにノートを送信したい場合に便利です。

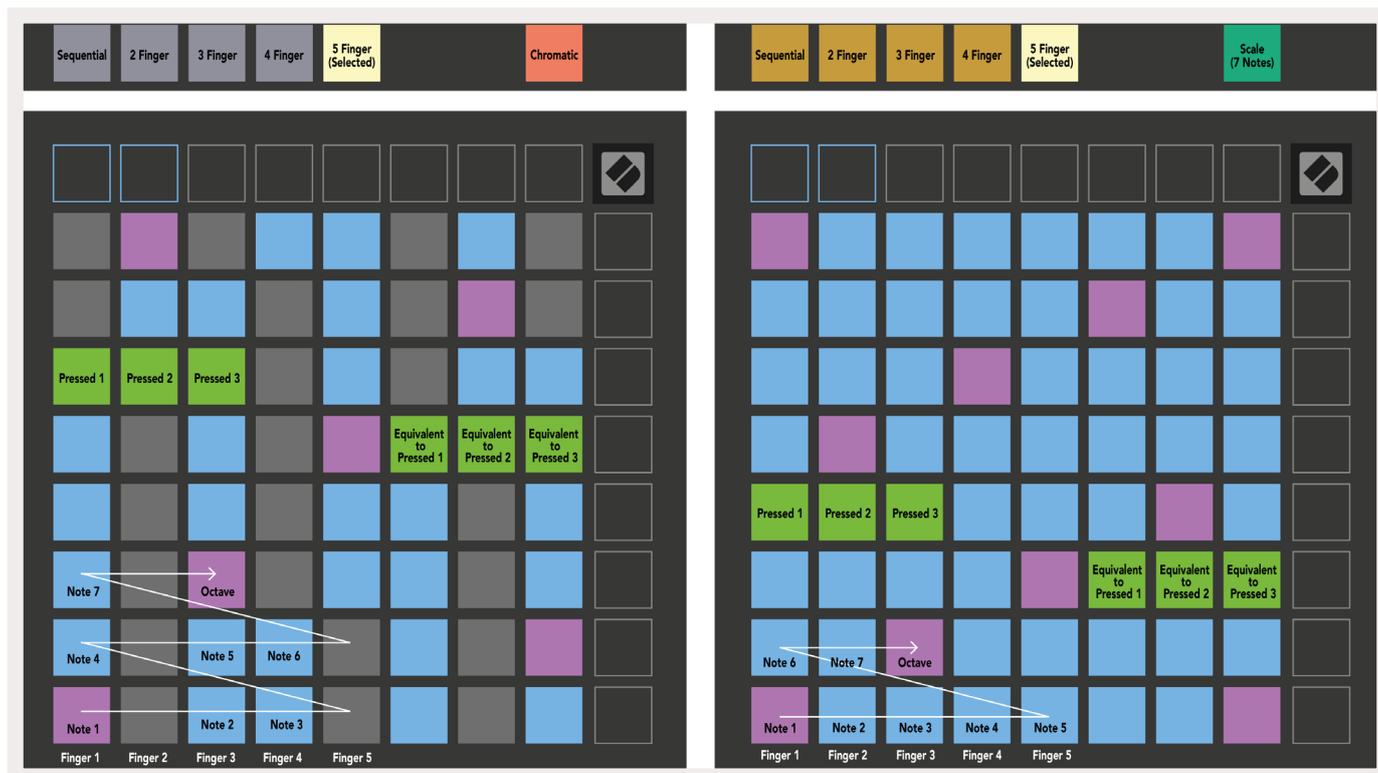


オーバーラップ

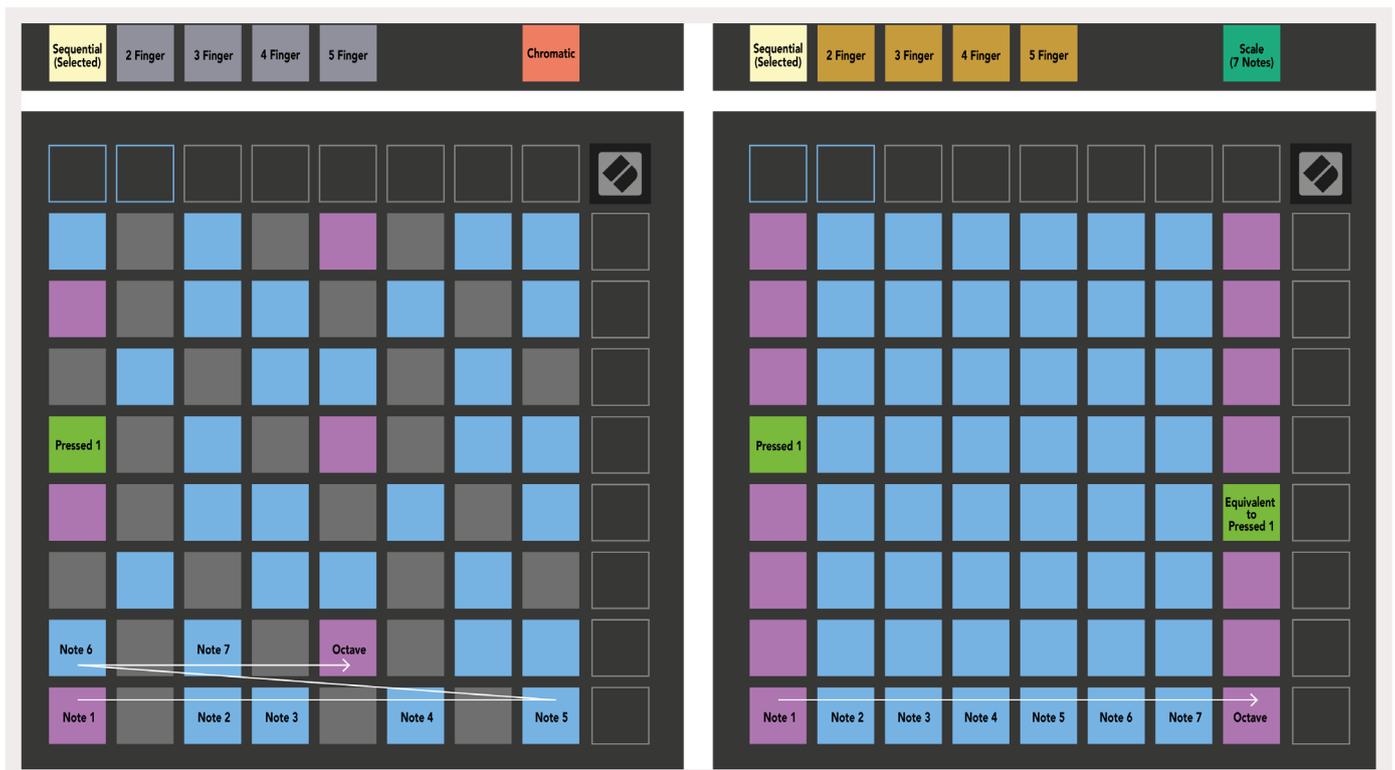
オーバーラップでは異なる列上のノート間の関係性を定義します。例えばオーバーラップが5の場合、横列の一番左のパッドがその下の列の6番目のパッドと同じノートとなります。

各オーバーラップの数字は、スケールを演奏するために必要な指の数を表しています。例えば、4 Fingerのオーバーラップでは、グリッドを上方向に進むひとつのスケールを4本の指だけで演奏できます。これは、片手での演奏に最適です。

シーケンシャルオーバーラップでは、2-5本指のオーバーラップとは仕組みが異なります。クロマチックモードではノートが横方向に配置され、同じノートを含むパッドがありません。スケールモードでは、ルート音のオクターブのみが重複します。スケールモードのシーケンシャルレイアウトは、広範囲にわたるオクターブを簡単に演奏することが可能です。



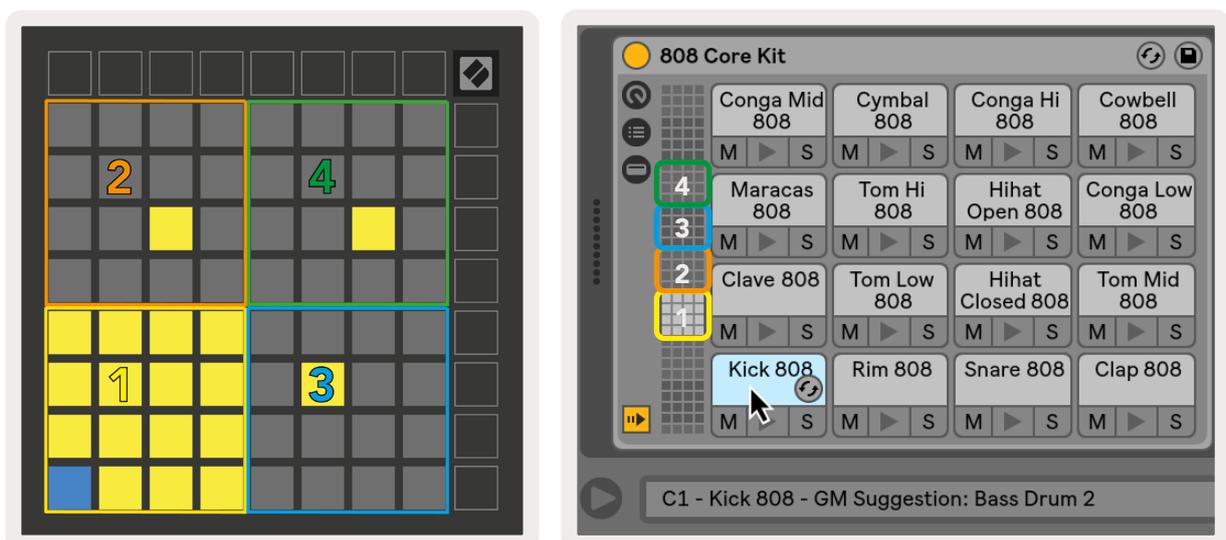
ドラムモード



現在録音アームされているトラックにAbleton Liveのドラムラックが読み込まれた場合、ノートモードが現在のドラムラックの状態を反映し、どのスロットにサンプルが含まれているか示されます。

Ableton Live内でブラウザーからドラムキットを選んでダブルクリック(またはトラックにドラッグアンドドロップ)し、MIDIトラックに読み込みます。パッドを演奏しても音が聞こえない場合には、トラックの録音アームが有効になっていることと、[Monitor]が[Auto]になっていることを確認します(ノートモードを参照)。

ドラムラックが読み込まれると、下図のように4x4のドラムラックのエリアがパッドに示されます。





4x4のグリッドの範囲内に表示させるドラムラックのエリアは、▲▼ボタンを使用することで16スロット分を一気に移動でき、◀▶ボタンを使用することで4スロット分を移動できます。本体左下部の4x4エリアに示されるドラムは、Ableton Live上で示されているものと常に対応します。

上図の2,3,4のエリア内にサンプルが読み込まれている場合、1のエリアと同じように黄色くパッドが点灯します。

ドラムパッドを押すと青く点灯して選択されていることを示し、そのパッドに含まれているサンプルをAbletonのドラムラックから編集できるようになります。

現在アームされているトラックにドラム以外のインストゥルメントが存在する場合、グリッドの表示形式がスケールモードまたはクロマチックモードに変わります。

Ableton Live内でブラウザーからインストゥルメント選んでダブルクリック(またはトラックにドラッグアンドドロップ)し、MIDIトラックに読み込みます。パッドを演奏しても音が聞こえない場合には、トラックの録音アームが有効になっていることと、[Monitor]が[Auto]になっていることを確認します。

カスタムモード

カスタムモードでは、Launchpad Xの8x8グリッドの高度なカスタマイズを行えます。

カスタムモードは全Novation製品のためのオンラインハブ-**Novation Components**を使用することで作成および編集することができ、作成したカスタムモードのバックアップも可能です。Componentsではいくつかのカスタムモードテンプレートも用意されており、ダウンロードが可能です。

Componentsへは、WebMIDI対応のブラウザ (Google ChromeまたはOpera推奨) を使用して components.novationmusic.com/ にアクセスしてください。

また、NovationウェブサイトのアカウントページからComponentsの**スタンドアロン版**もダウンロードが可能です。

カスタムモードはLaunchpad Mini Mk3とLaunchpad X間に対応します。

デフォルトカスタムモード

デフォルトでは、本体上で4つのカスタムモードが利用できます。

[Custom]ボタンを押してカスタムモードにアクセスすると上から4つのシーンローンチボタンが点灯し、カスタムモード 1、2、3、4間で切り替えられます。

カスタム1 は、ノートモードのドラムレイアウトに似ていますが、レイアウトの選択ができません。現在のAbletonのドラムラックの状態を示さず、オクターブの変更に対応しません。このモードは、Abletonのドラムラック以外のドラムマシーンを演奏する際に便利です。

64	65	66	67	96	97	98	99
60	61	62	63	92	93	94	95
56	57	58	59	88	89	90	91
52	53	54	55	84	85	86	87
48	49	50	51	80	81	82	83
44	45	46	47	76	77	78	79
40	41	42	43	72	73	74	75
36	37	38	39	68	69	70	71

カスタム2 は、従来のピアノやキーボードを代表するクロマチックレイアウトとなっています。全てのカスタムモードと同様に、このモードはオクターブの変更に対応しません。

	73	75		78	80	82	
72	74	76	77	79	81	83	84
	61	63		66	68	70	
60	62	64	65	67	69	71	72
	49	51		54	56	58	
48	50	52	53	55	57	59	60
	37	39		42	44	46	
36	38	40	41	43	45	47	36

カスタム3 は、カスタム1の無点灯バージョンであり、MIDIノートがこのレイアウトに送ることで、受信するノートのベロシティに応じてパッドが点灯します。

64	65	66	67	96	97	98	99
60	61	62	63	92	93	94	95
56	57	58	59	88	89	90	91
52	53	54	55	84	85	86	87
48	49	50	51	80	81	82	83
44	45	46	47	76	77	78	79
40	41	42	43	72	73	74	75
36	37	38	39	68	69	70	71

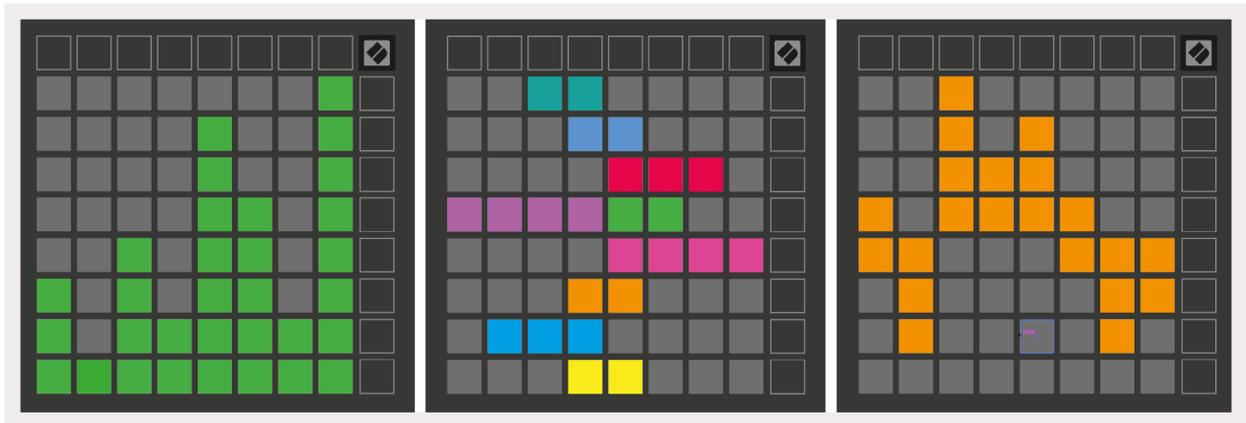
カスタム4 は、カスタム3とは異なるノート値を持つ無点灯のレイアウトです。ノート値はプログラマーモードと一致しますが、8x8グリッドのみです。

81	82	83	84	85	86	87	88
71	72	73	74	75	76	77	78
61	62	63	64	65	66	67	68
51	52	53	54	55	56	57	58
41	42	43	44	45	46	47	48
31	32	33	34	35	36	37	38
21	22	23	24	25	26	27	28
11	12	13	14	15	16	17	18

Novation Componentsでカスタムモードをセットアップする

カスタムモードは、Novation Components上で作成および編集を行います。Componentsがコンピューターに読み込まれると、Launchpad Xが自動的に接続されます。

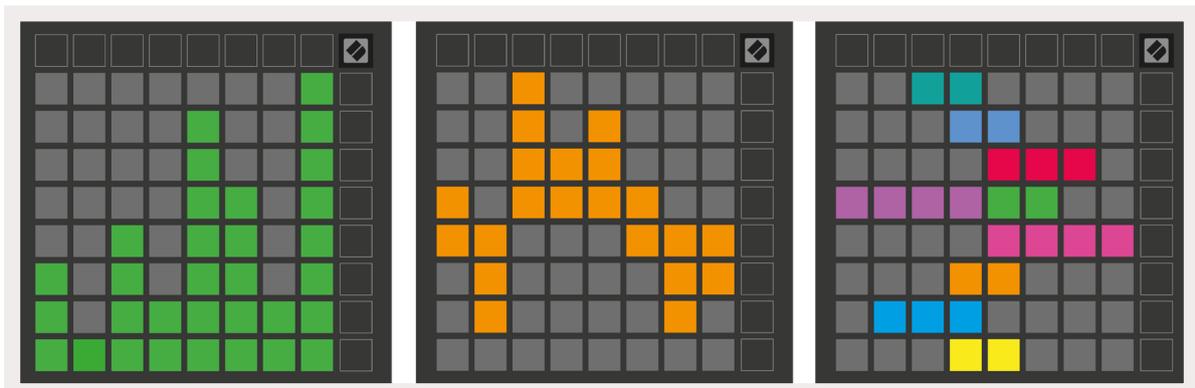
ホームアイコン(左上)横の製品名がLaunchpad Xになっていない場合、ホームアイコンを押して、製品リストからLaunchpad Xを選択してください。



カスタムモードでは、8x8グリッド内の各パッドは、ノート、MIDI CC (コントロールチェンジ)、プログラムチェンジメッセージとして機能します。

パッドはトグル、トリガー、またはモーメンタリ切り替えとして作用します。モーメンタリ切り替えでは、パッドが押されるとノートが有効になり、パッドから指が離れた瞬間にノートが無効になります。トリガーは常に特定のCC値またはプログラムチェンジメッセージを送信します。

パッド全体でフェーダーとしても機能します。フェーダーにはCC値がアサインされ、単極性または双極性に設定されるほか、横方向または縦方向に配置されます。



カスタムモード内のパッドは、押された場合／トグルされた場合に「オン」または「オフ」の色が割り当てられます（例：ノートが演奏されている間または一時的なCCチェンジがトグルされた場合）。カスタムモードごとに「オン」の色はひとつのみですが、各パッドにはそれぞれの「オフ」の色が設定されます。

カスタムモードでは、ノート、CC、プログラムチェンジ、フェーダーを組み合わせることで、独自のニーズに合わせた設定を行うことができます。

カスタムモードの作成方法に関するより実践的な内容については、Componentsでインタラクティブなチュートリアルをご利用いただけます。意外と簡単に設定できます。

パッドでライトショーを作る（上級者向け）

デフォルトでは、カスタム3およびカスタム4の全てのパッドが点灯しませんが、Launchpad XにMIDIノートメッセージを送ることで、ノートナンバーおよびベロシティにしたがってパッドが点灯します。送信するノートによってどのパッドが光るか定義され、ノートのベロシティはその色を定義します。64のRGBパッドを利用してライトショーを生成する際に便利です。

Launchpad XのRGB LEDは127色を出力することができ、プログラマーリファレンスガイドでそれらを確認できます。

さらに、全てのパッドとボタンは**プログラマーモード**で点灯させることができます。

パッドの光らせ方や、ソフトウェア用コントロールサーフェスとしてのLaunchpad Xの使用に関する詳細は、プログラマーリファレンスガイドをご確認ください。こちらからダウンロードが可能です：customer.novationmusic.com/support/downloads

ゴーストモードは、カスタムビューの特別なサブモードであり、

カスタムモード内では本体を囲む全てのファンクションボタンが消灯します。ゴーストモードにするには、[Note]と[Custom]を素早く続けて押します。すると、8x8グリッドのみが点灯します。グリッド周囲のボタンのLEDを再度点灯させるには、8x8グリッド外側のいずれかのボタンを押します。

設定

Launchpad Xの設定メニューでは、多岐にわたり自由に設定を行うことができます。LED、ペロシティ、アフタータッチ、フェーダーから構成される4種類のページを利用できます。

Sessionを軽く長押ししてセットアップメニューに切り替えると、上4列のパッドに「LED」と表示され、現在のメニューを示します。上4列のシーンローンチボタンを使って、それぞれの設定ページにアクセスします。

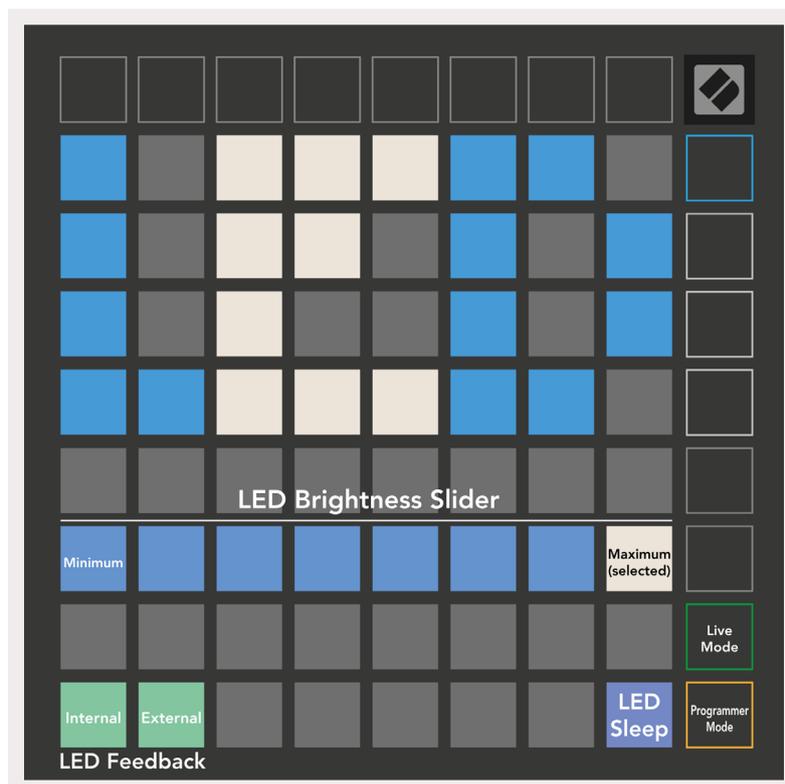
LED設定

一番上のシーンローンチボタンでは、Launchpad XのLED設定にアクセスできます。ここでは、LEDの明るさ、フィードバックを変更でき、LEDのスリープも行えます。

LED Brightness Levelスライダーは明るさの度合いを8レベルで示します。現在選択されているレベルが白いパッドで表されます。

LED Feedback (internal)では、カスタムモードで8x8グリッドのパッドを押したとき、点灯させるかどうかを切り替えます。LED feedback (internal)が有効の場合には明るい緑に、無効の場合には薄暗い赤で点灯します。この設定は、デフォルトでは有効になっています。

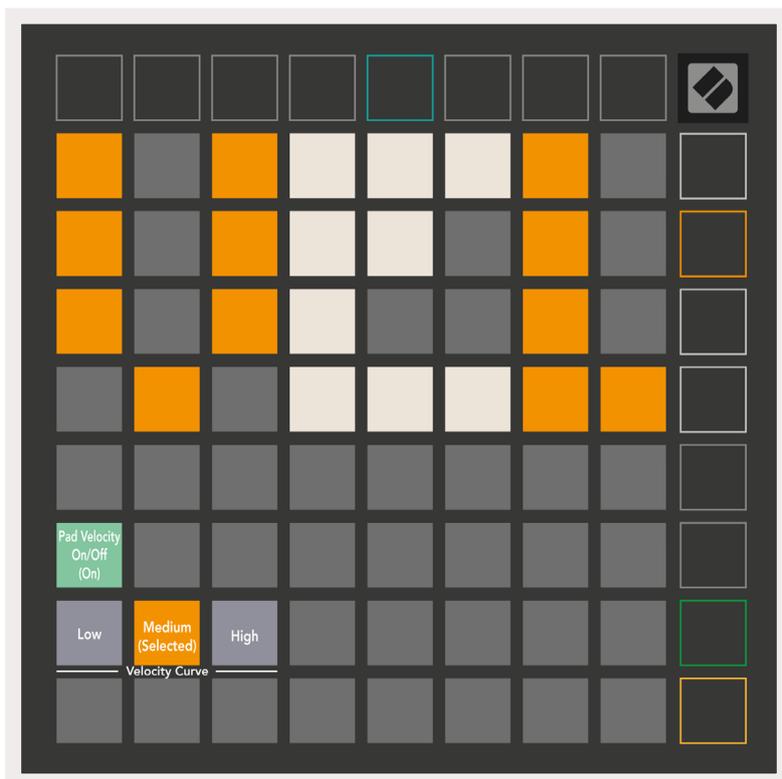
LED feedback (external)は、カスタムモードおよびプログラマーモードで外部からMIDIを受信した際に、8x8グリッドのパッドを点灯させるかどうかを切り替えます。LED feedback (external)が有効の場合には明るい緑、無効の場合には薄暗い赤で点灯します。この設定は、デフォルトでは有効になっています。



LED Sleepを押すと、Launchpad Xの全てのLEDが消灯します。いずれかのボタンまたはパッドを押すと、スリープが解除されます。Launchpad Xを使用していないがコンピュータからの接続を解除したくない場合に便利です。

ベロシティ設定

上から二番目のシーンローンチボタンでは、Launchpad Xのベロシティ (VEL) 設定にアクセスできます。ここでは、ベロシティセンシティブ対応のオンオフ切り替えができ、また3つのベロシティカーブから選択できます。

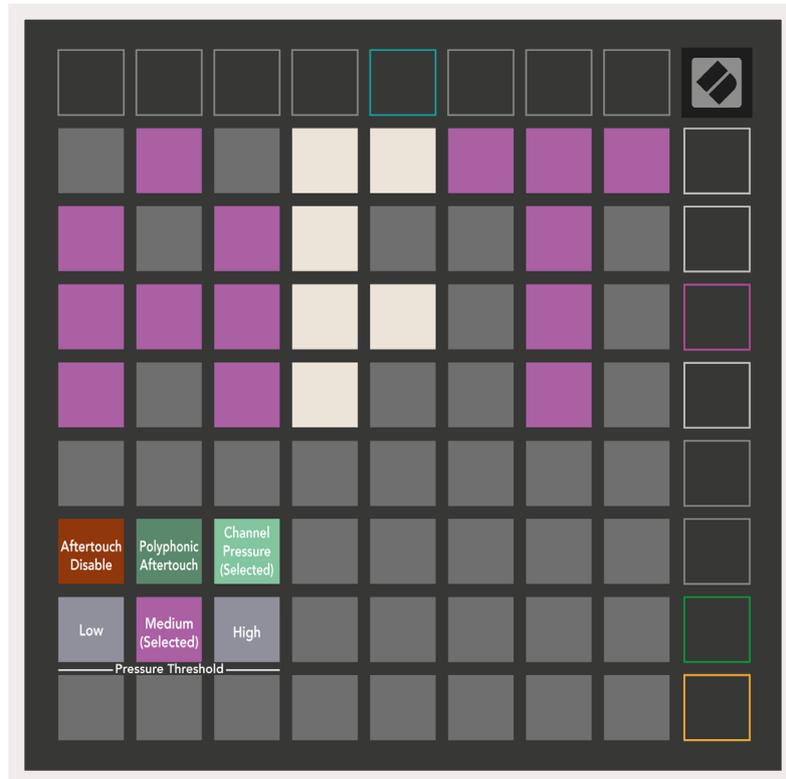


Velocity On/Offトグルでは、Launchpad Xの全般的なベロシティ機能を有効／無効化できます。ベロシティがオンの場合パッドが明るい緑に点灯し、オフの場合には暗い赤に点灯します。

Velocity Curveでは、ベロシティーカーブを選択できます。Lowの場合、高いベロシティ値を与えるためには大きな圧力(パッドを押す力)が必要となり、Highでは少しの圧力で高いベロシティ値を与られます。選択されているカーブは明るいオレンジに点灯し、それ以外のパッドは暗い白に点灯します。

アフタータッチ設定

上から三番目のシーンローンチボタンでは、Launchpad Xのアフタータッチ (AFT) 設定にアクセスできます。チャンネルプレッシャー、ポリフォニックアフタータッチ、アフタータッチ無効から選択し、3種類のスレッシュールド設定から選びます。

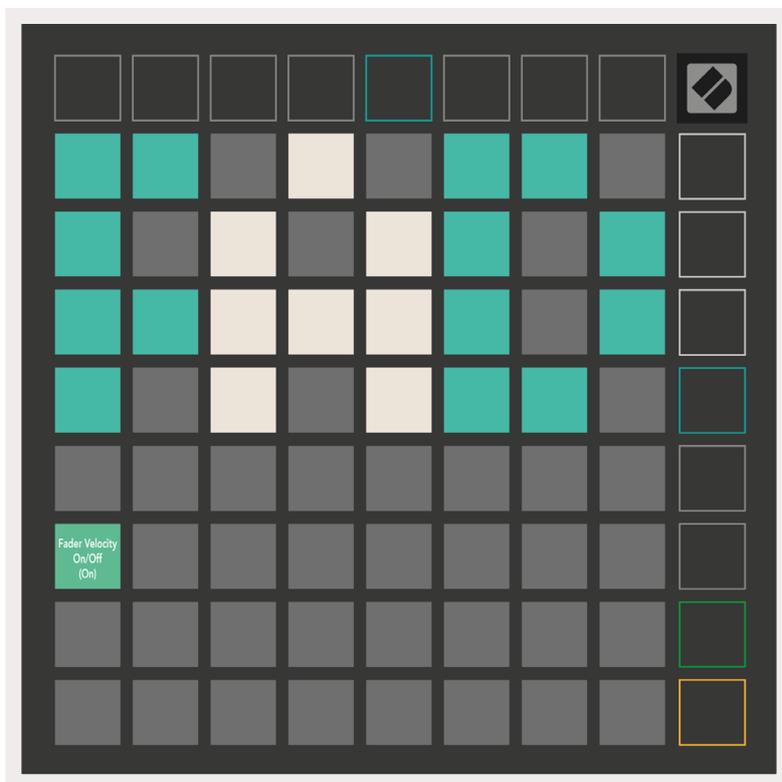


Aftertouch disabled、**Channel Pressure**、**Polyphonic Aftertouch** ボタンを押します。選択されたモードは明るく点灯し、他のモードは薄暗くなります。

そして3種類の**アフタータッチスレッシュールド**から設定を行えます。Lowの場合、小さな圧力(パッドを押す力)でアフタータッチを適用させられ、Highの場合には大きな圧力が必要になります。選択したスレッシュールドは明るい紫に点灯し、他は薄暗い白になります。

フェーダー設定

上から4番目のシーンローンチボタンでは、Launchpad Xのフェーダー（FAD）設定にアクセスできます。ここでは、共通設定のベロシティセンシティビティとは独立して、フェーダーに対するベロシティセンシティビティを有効／無効化できます。



フェーダーベロシティのオンオフは上図「Fader Velocity On/Off」パッドで行えます。オンの場合パッドが明るい緑色に点灯し、オフの場合暗い赤に点灯します。

Liveおよびプログラマーモード

Launchpad Xは、Liveモードまたはプログラマーモードのいずれかで操作します。

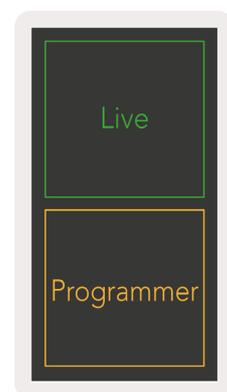
Liveモードでは、Launchpad Xが通常通り機能し、セッションモード、ノートモード、カスタムモードにアクセスできます。

プログラマーモードでは、セッションモード、ノートモード、カスタムモードにアクセスできなくなり、本体全体（パッドとボタン）が消灯します。各パッドやボタンが押されると指定されたMIDIメッセージを送信します。

Launchpad Xに該当するMIDIメッセージを送ることでパッドとボタンを点灯させることができます。詳細については、プログラマーリファレンスガイドをご確認ください。こちらからダウンロードが可能です：customer.novationmusic.com/support/downloads

Sessionontボタンを軽く長押しして設定メニューにアクセスすることで、Liveモードおよびプログラマーモード間の切り替えを行えます。緑色のシーンローンチボタンを押すとLiveモードに、オレンジ色のシーンローンチボタンを押すとプログラマーモードに切り替わります。

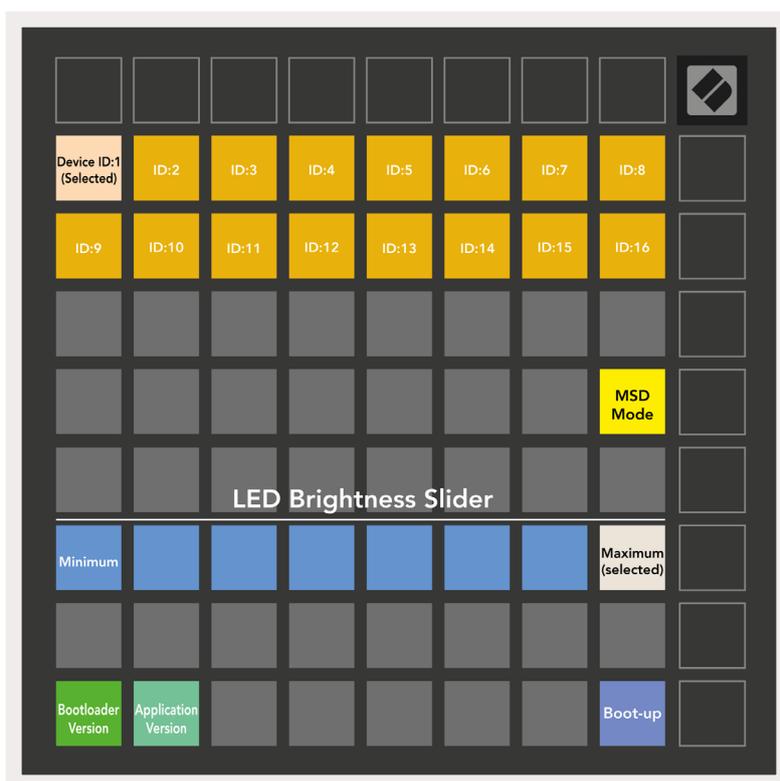
Launchpad Xの電源を入れると常にLiveモードとなっています。



ブートローダーメニュー

ブートローダーメニューでは、LEDの明るさ／フィードバック、大容量記憶装置としての挙動、デバイスIDを変更できます。

[Capture MIDI]を押さえながらLaunchpad Xをコンピュータに接続することで、ブートローダーメニューに切り替わります。



LED Brightness Levelスライダーは明るさの度合いを8レベルで示します。現在選択されているレベルが白いパッドで表されます。

Bootloader Version では、Launchpad Xの現在のブートローダーのバージョンが確認できます。

Application Version では、Launchpad Xの現在のアプリケーションのバージョンが確認できます。

Boot Up ボタンを押すと、Launchpad Xが通常どおり起動され、ブートローダーメニューが終了します。

MSD Modeでは、Launchpad Xの大容量記憶装置としての動作のオンオフ切り替えが行えます。デフォルトではMSD Modeが有効となっているため、コンピュータに接続すると大容量記憶装置として認識されます。LAUNCHPAD Xフォルダ内にはEasy Start Toolのリンクが含まれており、Launchpad Xのセットアップ際に役立ちます（使用準備参照）。Launchpad Xのセットアップが完了し、今後大容量記憶装置として表示させたくない場合には、この切り替えで無効にできます。MSD Modeのパッドが明るく点灯しているときはオンに、暗く点灯しているときはオフになっています。

Device IDでは、一度に複数のLaunchpad XをAbleton Liveと一緒に使用できます。各Launchpad Xで異なるID値が選択されている場合、それぞれが独自のセッションビューのエリアを持つため、Liveのセッションを独立して移動することができます。

デフォルトMIDIマッピング

カスタム1: 8x8グリッド、モーメンタリノートオンメッセージ (ノートナンバーは下図)

64	65	66	67	96	97	98	99
60	61	62	63	92	93	94	95
56	57	58	59	88	89	90	91
52	53	54	55	84	85	86	87
48	49	50	51	80	81	82	83
44	45	46	47	76	77	78	79
40	41	42	43	72	73	74	75
36	37	38	39	68	69	70	71

カスタム2: 8x8グリッド、モーメンタリノートオンメッセージ (ノートナンバーは下図)

	73	75		78	80	82	
72	74	76	77	79	81	83	84
	61	63		66	68	70	
60	62	64	65	67	69	71	72
	49	51		54	56	58	
48	50	52	53	55	57	59	60
	37	39		42	44	46	
36	38	40	41	43	45	47	36

カスタム3: 8x8グリッド、モーメンタリノートオンメッセージ (ノートナンバーは下図)

64	65	66	67	96	97	98	99
60	61	62	63	92	93	94	95
56	57	58	59	88	89	90	91
52	53	54	55	84	85	86	87
48	49	50	51	80	81	82	83
44	45	46	47	76	77	78	79
40	41	42	43	72	73	74	75
36	37	38	39	68	69	70	71

カスタム4: 8x8グリッド、モーメンタリノートオンメッセージ (ノートナンバーは下図)

81	82	83	84	85	86	87	88
71	72	73	74	75	76	77	78
61	62	63	64	65	66	67	68
51	52	53	54	55	56	57	58
41	42	43	44	45	46	47	48
31	32	33	34	35	36	37	38
21	22	23	24	25	26	27	28
11	12	13	14	15	16	17	18

プログラマーモード: ボタンおよびパッド (9x9全グリッド)、ロゴLEDを指定可能 / 8x8グリッド上でモーメンタリノートオンメッセージ / ノート番号は以下の通り、一番上の列および一番右の列よりCCメッセージを送信

91	92	93	94	95	96	97	98	99
81	82	83	84	85	86	87	88	89
71	72	73	74	75	76	77	78	79
61	62	63	64	65	66	67	68	69
51	52	53	54	55	56	57	58	59
41	42	43	44	45	46	47	48	49
31	32	33	34	35	36	37	38	39
21	22	23	24	25	26	27	28	29
11	12	13	14	15	16	17	18	19

Launchpad XのMIDIコントローラーに関する詳細は、こちらのプログラマーのリファレンスガイドをご参照ください: customer.novationmusic.com/support/downloads